Ⅲ

学部・研究科等による取組み

Ⅲ－４　東京キャンパス

東京キャンパス学年暦 …… 229

人文学部 …… 231

学部レビュー

１　学生の受け入れ

２　教育課程

３　学生支援

４　進路支援

５　研究活動

６　社会貢献

７　図書館〔東京〕

８　自己点検・評価

９　その他

2017（平成29）年度　東京キャンパス〔人文学部〕　学年暦

4月			
1	土		1年生オリエンテーションⅠ　学生証登録
2	日		
3	月		1年生オリエンテーションⅡ　健康診断
4	火		1年生オリエンテーションⅢ
5	水		入学式
6	木	①	前学期：講義開始
7	金	①	
8	土	①	
9	日		
10	月	①	
11	火	①	
12	水	①	前期履修登録（Sナビ）締切
13	木	②	
14	金		新入生セミナー（2～4年生休講日）
15	土		新入生セミナー（2～4年生休講日）
16	日		
17	月	②	
18	火	②	
19	水	②	
20	木	③	
21	金	②	
22	土	②	
23	日		（創立記念日）
24	月	③	
25	火	③	
26	水	③	
27	木	④	花まつり（1限）
28	金	③	
29	土	③	昭和の日（通常授業日）
30	日		

5月			
1	月		昭和の日（4/29）の振替休日
2	火		こどもの日（5/5）の振替休日
3	水		憲法記念日
4	木		みどりの日
5	金	④	こどもの日（通常授業日）
6	土	④	
7	日		
8	月	④	
9	火	④	
10	水	④	
11	木	⑤	
12	金	⑤	
13	土	⑤	
14	日		
15	月	⑤	
16	火	⑤	
17	水	⑤	
18	木	⑥	
19	金	⑥	
20	土	⑥	
21	日		
22	月	⑥	
23	火	⑥	
24	水	⑥	
25	木	⑦	
26	金	⑦	
27	土	⑦	
28	日		第1回オープンキャンパス
29	月	⑦	
30	火	⑦	
31	水	⑦	

6月			
1	木	⑧	
2	金	⑧	
3	土		体育祭
4	日		（体育祭予備日）
5	月	⑧	
6	火	⑧	
7	水	⑧	
8	木	⑨	教職員健康診断
9	金	⑨	
10	土	⑧	
11	日		
12	月	⑨	
13	火	⑨	
14	水	⑨	
15	木	⑩	
16	金	⑩	
17	土	⑨	教職員特別研修会
18	日		第2回オープンキャンパス
19	月	⑩	
20	火	⑩	
21	水	⑩	
22	木	⑪	
23	金	⑪	
24	土	⑩	
25	日		
26	月	⑪	
27	火	⑪	
28	水	⑪	
29	木	⑫	
30	金	⑫	

7月			
1	土	⑪	
2	日		
3	月	⑫	
4	火	⑫	
5	水	⑫	
6	木	⑬	盂蘭盆会（2限）
7	金	⑬	
8	土	⑫	
9	日		
10	月	⑬	
11	火	⑬	
12	水	⑬	
13	木	⑭	
14	金	⑭	
15	土	⑬	
16	日		
17	月	⑭	海の日（通常授業日）
18	火	⑭	
19	水	⑭	
20	木	⑮	
21	金	⑮	
22	土	⑭	
23	日		第3回オープンキャンパス
24	月	⑮	
25	火	⑮	
26	水	⑮	
27	木	⑯	試験・補講
28	金	⑯	試験・補講
29	土	⑮	
30	日		
31	月	⑯	試験・補講

8月			
1	火	⑯	試験・補講
2	水	⑯	試験・補講
3	木		入試（傘下校（巣鴨））
4	金		
5	土	⑯	（試験・補講）
6	日		第4回オープンキャンパス
7	月		
8	火		
9	水		
10	木		
11	金		山の日
12	土		
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		
17	木		
18	金		海の日（7/17）の振替休日
19	土		
20	日		
21	月		
22	火		
23	水		
24	木		
25	金		成績発表（Sナビ）
26	土		
27	日		第5回オープンキャンパス
28	月		後期履修登録（Sナビ）開始
29	火		
30	水		
31	木		

9月			
1	金		
2	土		後期履修登録（Sナビ）締切
3	日		
4	月		
5	火		追試験
6	水		追試験
7	木		追試験
8	金		
9	土		
10	日		
11	月	①	後学期：講義開始
12	火	①	
13	水	①	
14	木	①	
15	金	①	
16	土	①	
17	日		入試（AO Ⅰ期）
18	月	②	敬老の日（通常授業日）
19	火	②	
20	水	②	
21	木	②	
22	金	②	
23	土	②	秋分の日（通常授業日）
24	日		第6回オープンキャンパス
25	月	③	
26	火	③	
27	水	③	
28	木	③	
29	金	③	
30	土	③	

10月			
1	日		
2	月	④	
3	火	④	
4	水	④	
5	木	④	
6	金	④	
7	土	④	
8	日		
9	月	⑤	体育の日（通常授業日）
10	火	⑤	
11	水	⑤	
12	木	⑤	
13	金	⑤	
14	土	⑤	
15	日		入試（AOⅡ期）
16	月	⑥	
17	火	⑥	
18	水		敬老の日（9/18）の振替休日
19	木	⑥	
20	金	⑥	
21	土	⑥	
22	日		
23	月	⑦	
24	火		秋分の日（9/23）の振替休日
25	水	⑥	
26	木	⑦	
27	金	⑦	
28	土	⑦	
29	日		
30	月	⑧	
31	火	⑦	

11月			
1	水	⑦	
2	木	⑧	
3	金	⑧	文化の日（通常授業日）
4	土	⑧	
5	日		
6	月	⑨	
7	火	⑧	
8	水	⑧	
9	木	⑨	
10	金	⑨	
11	土	⑨	
12	日		入試（AOⅢ期・指定校推薦・公募推薦）
13	月	⑩	
14	火	⑨	
15	水	⑨	
16	木	⑩	
17	金		淑徳祭準備日
18	土		淑徳祭　第7回オープンキャンパス
19	日		淑徳祭　第8回オープンキャンパス
20	月		体育の日（10/9）の振替休日
21	火	⑩	
22	水	⑩	
23	木		勤労感謝の日
24	金	⑩	
25	土	⑩	
26	日		
27	月	⑪	
28	火	⑪	
29	水	⑪	
30	木	⑪	

12月			
1	金	⑪	
2	土	⑪	
3	日		
4	月	⑫	入試（傘下校（与野））
5	火	⑫	
6	水	⑫	
7	木	⑫	
8	金	⑫	成道会（3限）
9	土	⑫	
10	日		入試（AOⅣ期・社会人・帰国生徒・留学生）
11	月	⑬	
12	火	⑬	
13	水	⑬	
14	木	⑬	
15	金	⑬	
16	土	⑬	
17	日		
18	月	⑭	
19	火	⑭	
20	水	⑭	
21	木	⑭	
22	金	⑭	年内講義終了
23	土		天皇誕生日
24	日		
25	月		文化の日（11/3）の振替休日
26	火		事務局休暇開始
27	水		
28	木		
29	金		
30	土		
31	日		

1月			
1	月		元旦
2	火		
3	水		
4	木		
5	金		
6	土	⑭	講義開始
7	日		
8	月		成人の日
9	火	⑮	
10	水	⑮	
11	木	⑮	
12	金	⑮	
13	土	⑮	
14	日		
15	月	⑮	
16	火	⑯	試験・補講
17	水	⑯	試験・補講
18	木	⑯	試験・補講
19	金	⑯	試験・補講
20	土	⑯	試験・補講
21	日		
22	月	⑯	試験・補講
23	火		
24	水		
25	木		
26	金		
27	土		
28	日		
29	月		
30	火		
31	水		

2月			
1	木		入試（一般A）
2	金		入試（一般A）
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		
9	金		成績発表（Sナビ）
10	土		
11	日		建国記念の日
12	月		振替休日
13	火		追試験　再試験（4年生のみ）
14	水		追試験　再試験（4年生のみ）
15	木		追試験　再試験（4年生のみ）
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		入試（一般B）
22	木		
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水		

3月			
1	木		
2	金		
3	土		入学前セミナー
4	日		
5	月		
6	火		卒業評定会
7	水		
8	木		
9	金		
10	土		
11	日		
12	月		入試（AOⅤ期、選択）
13	火		
14	水		卒業式（確定）
15	木		
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		春分の日
22	木		
23	金		
24	土		全教員会
25	日		第9回オープンキャンパス
26	月		新2・3年生オリエンテーション
27	火		
28	水		
29	木		
30	金		
31	土		

平成29年度　東京キャンパス（人文学部）レビュー

1．平成29年度振り返り

【人文学部】

（1）学生募集（取組み、成果）

学生募集については、教職協働体制での取り組みにより、学部として45名増加した入学定員を確保することができた。入学者数は歴史学科74名、表現学科92名、合計166名である。

定員確保の要因としては、職員の高校訪問、教員の出前授業、オープンキャンパスの工夫などが挙げられ、オープンキャンパスの参加者も前年比増加した。

（2）キャリア支援（取組み、成果）

第1期生の就職希望者全員が内定を取得し、就職内定率100％を達成した。キャリアガイダンスやゼミを通じた教職協働体制での就活支援が効果をあげたと言える。歴史学科では社会科教員免許取得学生が教職に就き、表現学科ではマスコミ分野で就職するなど、多くの学生たちがそれぞれの学科の学びを生かした進路に進んでいる。

課題としては、次年度以降も高い就職内定率を維持し、学生が目指す分野での就職を増加させるために、教職協働体制を一層緊密化し、学生のキャリアガイダンス出席率を高める具体案を検討することなどが考えられる。

（3）正課活動（取組み、成果）

表現学科・歴史学科ともに特色ある授業を展開して、学生の満足度も向上している。授業では旧来の講義形式にとどまらずアクティブラーニングなどの双方向性の形態を積極的に取り入れている。また、ルーブリックを導入しており、新たに取り入れた卒業制作、卒業論文用のルーブリックを活用して論文、制作物の評価に活用した。

（4）正課外活動（取組み、成果）

歴史学科、表現学科共に多くのフィールドワークや学外授業を実施している。従来の座学中心の授業にとどまらず、学外の施設で体験的に学ぶことにより、学生たちは表現学・歴史学に対する関心を高め、深い学びにつなげている。

2．次年度への課題、方策

オープンキャンパスの参加人数は増加させることが出来たが、受験生の参加人数は減っていたため、参加した受験生が出願に結びつくような対応をしていくことが課題になってくる。

また、これまで以上に入学定員の厳格化を図る必要があるため、入学定員の確保と共に入学定員の管理を徹底する。

就職に関しては高い就職内定率を維持しつつ、教職協働体制のさらなる強化により、学生のキャリア支援ガイダンスの出席率を向上させ、各学科の学びの専門性を生かした分野での就職率を高めることが課題である。

以上

人文学部

1　学生の受け入れ

関連委員会	募集・入試委員会
関 連 部 署	アドミッションセンター東京オフィス
関連データ	学生（表２）、学部・学科における志願者・合格者・入学者の推移（表３）

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

これまで以上に入学定員については、厳格化がなされているため、入学定員の確保はもとより、アドミッション・ポリシーに合った学生をしっかりとっていけるよう募集・入試委員会所属の教員とアドミッションセンター職員が一丸となって取り組む。

教職員が一つにならなくては、募集活動・入試活動の実現は不可能なので、万全の協力体制を構築していく。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（１）活動方針

募集・入試委員会所属の教員とアドミッションセンター職員が万全の教職協働体制を構築して、掲げた目標の達成を実現させる。

（２）目標

① 高校への出前授業の回数を前年度より増加させる。
② オープンキャンパスの参加人数を前年度より増加させる。
③ 入学定員が増加するので、入学者定員を確保する。

2　具体的計画　PLAN

① 高校への出前授業の回数を前年度より増加させるために、業者との関係を緊密にする。
② オープンキャンパスの参加人数を前年度より増加させるために、学科別の興味あるイベント・模擬授業を計画する。
③ 増加する入学者定員を確保するために、出前授業・オープンキャンパスの内容の充実を図る。

3　取組状況　DO

① 高校への出前授業の回数は前年度３回であったが、大幅に増え10回実施をした。
② オープンキャンパスの参加人数は前年度1,336名に対して、今年度は、1,385名と増加した。
③ 募集・入試委員会、学科会等で、オープンキャンパス参加者のニーズにあったプログラムの検討を行った。
歴史学科は60名定員に対して74名、表現学科は85名定員に対して92名が入学した。

4　点検・評価　CHECK

① 高校への出前授業を10回実施できたことは評価できる。出前授業の対象の生徒は高校１、２年生が多いため、受講生の出願につながるように、授業の質の向上を図る。
② オープンキャンパスの参加人数は前年度を上回ったが、受験生の参加人数は下回る結果となった。
③ 入学定員は増えたが、両学科ともに定員を確保できたことは評価できる。今後は、教職員のみならず、アドスタッフとも連携、協力を密にして、来場者の満足度をさらに高め、出願につなげていきたい。

5　次年度に向けた課題　ACTION

オープンキャンパスの参加人数は増加させることが出来たが、受験生の参加人数は、減って

いたため、参加した受験生が出願に結びつくような対応をしていくことが課題になってくる。
　また、これまで以上に入学定員の厳格化を図る必要があるため、入学定員の確保と共に入学定員の管理を徹底する。

以上

人文学部

2　教育課程①〔歴史学科〕

関連委員会	教学委員会・教育向上委員会
関 連 部 署	学生支援部
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

（1）今年度より淑徳祭においてゼミの研究発表会を実施したが、その際の運営についても学生主体で実施するように努めた。しかし、初めての試みということもあり、時には教員が細部にわたって指導しなければならない場面もあった。次年度は、学生に一層の主体性を発揮させるための工夫が必要である。

（2）また地域貢献を視野に入れるならば、歴史学科の学習成果のアセスメントについて、大学だけで完結するのではなく大学に関わりを持つステークホルダーや地域社会の中での評価のなされ方が必要になってくると言えよう。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）活動方針

① 専門分野における基礎的知識を自らの手で体系的に理解できるように、歴史学を構成する主要分野に関する基礎的な知識を教授する。

② 各専門分野に結びつく幅広い内容や専門的技能を修得させる。

③ 理論的知識や能力を実務に応用できるようなスキルを開発する。

④ 歴史学の学問体系の理解の基に、歴史学の分野に関する基本的知識を自らの手で体系的に理解できるようにし、これらを総合的に実践できるような能力を身につけさせる。

（2）目標

① アクティブラーニングを導入している科目の50％以上において、学生がより主体的に取り組むことができるように運営形態に工夫を加える。

② 学科独自のルーブリックを活用している科目の50％以上において、学生が自らの手で自らの成長を確認できるように、授業内容に改善を加える。

③ 地域貢献を視野に入れ、地方自治体を始めとする地域社会の人々と連携しながら教室外プログラムを開発する。

2　具体的計画　PLAN

① １年を通じて、学生がより主体性を発揮できるアクティブラーニングのあり方について、学科会等で検討し学生が参加できる環境をととのえる。

② １年を通じて学科独自のルーブリックが学生間において互いを評価できるものとなっているかどうか、学科会等で検討を加える。

③ １年を通じて、教室外プログラムの実施に先立ち、必要に応じて地方自治体を始めとする地域社会の人々と協議を行う。

3　取組状況　DO

歴史学科の教育活動においては、グループ学習やフィールドワークなどを積極的に導入しアクティブラーニングの推進に努めてきた。

4　点検・評価　CHECK

① 学生がより主体性を発揮できるアクティブラーニングのあり方について、学科会等で検討し学生が参加できる環境を調えることができた。

② 学科独自のルーブリックが学生間において互いを評価できるものとなっているかどうか、この点について学科会等で検討を加えることができた。
③ 教室外プログラムの実施に先立ち必要に応じて地方自治体を始めとする地域社会の人々と協議を行うことができた。

5 次年度に向けた課題 ACTION

今後は、より学生が能動的に学修できるように、学生を授業の運営に積極的に関与させるなどの工夫を行う必要がある。そのためには、教員は単なる教育者ではなく、教育活動におけるコーディネーターやプロデューサーとしての役割を果たすことが求められている。

人文学部

2　教育課程②〔表現学科〕

関連委員会	教学委員会・教育向上委員会
関 連 部 署	学生支援部
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

（1）完成年度を迎えて、ゼミとキャリア支援室と連携しての就職支援体制をさらに強固なものとする。
（2）完成年度以降のカリキュラムの見直しを進める。
（3）表現学科の特色あるアクティブ・ラーニングの開発を進めるとともに、継続実施を可能にする仕組みづくりを検討する。
（4）日本語検定３級合格を必修科目の単位取得の条件とするなど、合格を促すための対策を検討する。また受験料の補助も併せて検討する。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）ゼミ指導と就職活動の支援の連携をはかる。
（2）完成年度以降の方向性を定めて具体化する。
（3）他大学にはない教育手法を開発し、受験生を引き付ける。
（4）日本語の基礎学力向上を目指す。

2　具体的計画　PLAN

（1）ゼミ指導とキャリア支援室の連携により、一期生の就職率95％超を目指す。３年生は夏までのキャリアアワー出席率を高め、夏のインターンシップ参加率４割超をめざす。
（2）完成年度以降の方向性を夏までに固め、夏以降は具体化に向けて動く。専任教員２人の採用に向けて動く。
（3）企業や自治体との特徴あるPBL、また学外授業など、表現学科の特色を生かしたアクティブ・ラーニングを行い、教育効果を高めると同時に、学外へのPRにつなげる。
（4）３年次までに全員が日本語検定３級以上取得することを目指す。

3　取組状況　DO

（1）各ゼミでのキャリア面談結果をキャリア支援室と共有し、連携をとりながら就職活動支援を行った。３年生にはキャリアアワー出席をゼミ教員から促した。
（2）完成年度以降のカリキュラム再編の議論を進めるも、再編が先延ばしとなったため、議論をいったん中断した。専任教員の採用は計画通り進めた。
（3）表現学科の特色を生かしたPBL、学外授業に積極的に取り組み、地域連携・企業連携の教育プログラムも７件実施した。こうした成果をオープンキャンパスやホームページなどで積極的に発信することに努めた。
（4）日本語検定の受験を促すものの、受験者増につなげることはできなかった。

4　点検・評価　CHECK

（1）一期生の就職率100％を達成することができた。メディア・表現関連の就職は、全体の３割に及び、一期生の就職状況はほぼ目標通りといえる。
（2）完成年度以降のカリキュラム再編については先延ばしとなったものの、基本方針については議論を重ねることができた。
（3）表現学科らしいPBLで教育成果を上げることができた。志村警察署の高齢者詐欺被害防止キ

ャンペーンの貢献により表彰を受ける、また編集系ゼミで制作した冊子が新聞各紙で紹介されるなど、学外への発信にもつながった。

（4）日本語検定の受験者増については、課題が残った。

5 次年度に向けた課題 ACTION

学生の就職率は目標を達成できたといえるが、今後は質の向上に注力したい。学生満足度の高い就職、表現学科らしい就職を実現するために支援体制の見直しも必要だ。

日本語検定受験を促しつつ日本語をはじめとする基礎学力を向上させ、これを表現学科らしい制作、また卒業研究につなげることは引き続きの課題である。

以上

人文学部

3　学生支援

関連委員会	教学委員会
関連部署	学生支援部
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

次年度はいよいよ完成年度を迎える。３年間において蓄積された成果と課題を踏まえ、学生が主体的に大学生活に取り組み、有意義な成果を得ることができるように東京キャンパス全体で組織的かつ計画的に学生支援体制をととのえていく。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）活動方針

① 履修・試験・成績・教育的指導など教務に関する事項について計画的、効果的に実施する。

② 学生が充実した学校生活を送ることができるように、生活指導・福利厚生・課外活動など学生厚生に対する支援を充実化させる。

③ 学生に学業上、生活上で問題が生じた際には教職員が一体となって保護者と連絡をとりながら支援を行う。

（2）目標

① アドバイザーやゼミ担当教員を通じて、学生１人１人に対する教育的指導を徹底させる。

② 学生厚生に対する支援に際しては、教職員だけではなく学生自身も主体的・積極的に参画できるような体制を調える。

③ アドバイザーやゼミ担当教員を通じて、常に学生１人１人の学業に対する取り組み姿勢や生活状況などの把握に努める。

2　具体的計画　PLAN

① アドバイザーやゼミ担当教員を通じて、成績不良者や欠席が多い学生の面談を適宜実施する。

② 新入生セミナーや体育祭、淑徳祭などの学校行事において学生主体の運営組織を作り、適宜支援していく。

③ 課外活動、特にサークル活動を奨励し、淑徳祭における研究発表など学術的な発表を促し支援していく。

④ アドバイザーやゼミ担当教員による面談を１年に１回以上実施する。

3　取組状況　DO

① アドバイザーやゼミ担当教員を通じて、成績不良者や欠席が多い学生の面談を適宜実施できた。

② 新入生セミナーや体育祭、淑徳祭などの学校行事において学生主体の運営組織を作り、適宜支援することができた。

③ サークル活動を奨励し、淑徳祭における学術的な発表を促し支援することができた。

④ アドバイザーやゼミ担当教員による面談を年に１回以上実施できた。

4　点検・評価　CHECK

今年度は、概ね当初の目標を達成することはできた。

5　次年度に向けた課題　ACTION

① 成績不良者や欠席が多い学生の面談の結果について、情報の共有化に努める必要がある。

② 淑徳祭については、現状では短大と合同で実施しているが、その中でも人文学部の学生の独自性が発揮できるような工夫が必要である。
③ 授業料未納の学生の保証人に対する連絡の方法など教学委員会の立場から総務部に働きかけていくような体制作りが必要である。

人文学部

4　進路支援

関連委員会	キャリア支援委員会
関連部署	キャリア支援室
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

（1）次年度の課題として、キャリア支援室の利用について、ゼミ担当教員に漫然と依頼するのではなく、学生をキャリア支援室に行かせるための情報提供をゼミ担当教員に行うなどきめの細かい連携が必要である。
（2）具体的には、必要に応じてゼミの教員が引率する形でゼミごとにキャリア支援室を訪問し、ガイダンスを受けさせる方法が考えられる。
（3）あるいはキャリア関連の科目「社会的・職業的自立」Ⅰ・Ⅱなどにおいて、担当教員と事前に調整しながら、授業の中でキャリア支援室の利用方法のガイダンスを行う方法もある。今後、このような形で学生にとってキャリア支援室をより身近な存在として活用できるように工夫を重ねていく必要がある。
（4）また、インターンシップの支援についても組織的計画的に実施しなくてはならない。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）活動方針
① 平成29年度卒業生就職率95％以上を達成するために、学生の強みと弱みを把握し、学生自身にもそれを認識させながら、強みを伸ばし弱みに対する底上げを行う。
② 学生の個性を尊重し、本人自身が主体性を持って進路を選択できるように支援する。
③ 学生が進学時に希望していた職業及び学科で学んだことが活かせる職業について多くの情報を提供し、学生自身が多様な選択をできるようにする。
④ 困難な進路をあえて選んだ学生については、現実を直視させると同時に、本人の真剣度を確認した上で、必要に応じて最大限の支援を行う。

（2）目標
① キャリアカウンセラーによる面談や支援の充実を図る。
② 公立学校教員採用候補者選考試験対策講座を開講し、教員志望者の受講率50％以上を目指す。
③ キャリア支援講座への平均出席率について、就職希望者のうち１年生50％以上、２年生70％以上、３年生80％以上を目指す。
④ インターンシップによる情報提供を組織的計画的に実施する。

2　具体的計画　PLAN

① ゼミ担当教員を通して、３年生には必ずキャリア支援室へ行かせ、キャリアカウンセラーと面談させるように指導する。
② ゼミ担当教員やアドバイザー教員を通して、教職課程履修者に対する公立学校教員採用候補者選考試験対策講座への出席を呼びかける。
③ ゼミ担当教員やアドバイザー教員を通して、キャリア支援講座への出席を呼びかける。必要に応じて文書、Ｓナビなどの通信手段によって連絡する。また、学生の保護者に対しても協賛会などの場を通してキャリア支援講座の重要性について口頭で述べると共にキャリアサポートガイドを配布し、最新情報の提供を図る。
④ インターンシップの重要性について、各学年のキャリア支援講座で喚起する。また各学科教員と連携し、学科教育と深く関わる職種についてのインターンシップ先を開拓する。

3 取組状況 DO

① ゼミ担当教員を通して３年生には必ずキャリア支援室に行かせ、キャリアカウンセラーと面談させるように指導した。
② ゼミ担当教員やアドバイザー教員を通して、教員志望者に対する公立学校教員採用候補者選考試験対策講座への出席を呼びかけた。
③ ゼミ担当教員やアドバイザー教員を通じてキャリア支援講座への出席を呼びかけた。保護者に対しても協賛会の場において支援講座への重要性を喚起した。
④ インターンシップの重要性について、各学年のキャリア支援講座で喚起した。

4 点検・評価 CHECK

① キャリアカウンセラーによる面談や支援の内容に関する情報をゼミ担当教員と共有し、個別指導の内容を深化させることができた。
② 教職運営委員会と連携し、必要に応じて教員志望者に対し、対策講座への出席を促した結果、公立学校教員採用候補者選考試験対策講座において、教員志望者の受講率50％以上を達成できた。
③ キャリア支援講座への平均出席率について、就職希望者のうち１年生50％以上、２年生70％以上、３年生80％以上という目標は達成できず、目標に対する達成率69～60％にとどまった。
④ インターンシップに関する情報提供は概ね組織的計画的になされた。

5 次年度に向けた課題 ACTION

各学科において少人数ではあるが、教員やアナウンサーなど学科の特徴を活かした就職実績を作ることはできた。同時に、進路の幅を広げることができた学生もいた。進路の選択に関わる支援について、必ずしも満足していない学生や保護者も存在する。今後は本学部の学生の特徴や気質を直視した上で、早めに進路選択の幅を広げるような指導を進めていく必要がある。

人文学部

5　研究活動

関連委員会	自己点検評価委員会
関連部署	総務部、教育研究支援センター
関連データ	淑徳大学人文学部研究論集第３号、教育研究費内訳（表８）

平成28年度大学年報	【次年度に向けた課題】
教育と研究のバランスをとりながら、各教員が研究を続けることができる環境づくりを行う。	

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（１）活動方針
　教員の研究活動を促す。
（２）目標
　① 専任教員は全員、科学研究費を申請する。
　② 専任教員は、年１本以上の学術論文を書き、研究実績を積み重ねていく。
　　単著のない教員は、早い時期に単著を公刊する。

2　具体的計画　PLAN

① 専任教員の科学研究費申請は、学科長が学科所属の専任教員に申請を促す。
② 学会誌、学術雑誌、あるいは「人文学部論集」に論文を投稿するように促す。
　単著のない教員には、２年以内に単著を公刊するように指導する。

3　取組状況　DO

① 科学研究費申請対象となる専任の教員はほぼ全員、それぞれの専門領域で研究計画を立て、必要に応じて科学研究費を申請した。
② 専任教員は、ほぼ全員、学会誌あるいは「人文学部論集」で論文を発表、あるいは単著を出した。

4　点検・評価　CHECK

① 科学研究費申請対象となる専任教員の申請の高い割合は評価できる。
② 専任教員のほぼ全員が論文を発表し、単著も公刊され、研究活動が活発であったことは評価できる。

5　次年度に向けた課題　ACTION

　科学研究費助成事業を始めとする外部資金獲得に向けて、更なる申請、獲得の増加を促進する。研究業績として年間２本以上の論文執筆が達成できるように周知徹底をはかる。

以上

人文学部

6　社会貢献

関連委員会	教学委員会、教職運営委員会、ボランティアセンター
関連部署	学生支援部、ボランティアセンター
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

地方自治体と連携しての社会貢献活動を発展継続するために、東京キャンパスでサービスラーニングセンターといった専門部署を立ち上げることも検討したい。

1 平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）包括連携協定を結んでいる自治体および今後結ぶ予定のある自治体の文化財に関わる情報発信事業や普及啓発活動実施の可能性を探る。
（2）産学連携の意義を理解し、各教員が積極的に社会貢献プログラムに取り組む。

2 具体的計画　PLAN

（1）包括連携協定を結んでいる自治体および近隣自治体の文化財担当者、広報担当者などと協議を行い、情報発信事業や普及啓発活動の可能性を探る。
（2）専任教員は、年間に1件ほどの産学連携の教育、研究を計画する。

3 取組状況　DO

（1）包括連携協定を結ぶ板橋区及び八潮市の文化財担当者と協議を行い、文化財保護の支援に寄与した。
（2）板橋区志村警察署の依頼により高齢者詐欺防止の企画を立案しグッズを制作、また板橋区の活性化に貢献する動画を作成するなど、表現学科での学びを生かした活動に取り組んだ。
（3）出版社と連携し絵本販売プロジェクトを企画し、近隣の子どもに対する絵本読み聞かせ会を実施、また民間学童企業で子供が新聞を制作するイベントに学生が参加するなど、民間企業と連携しての社会貢献活動を行った。

4 点検・評価　CHECK

新学部の完成年度を迎えて4学年揃ったことにより、各学科の学びの特徴を生かした社会貢献活動が実を結んでいる。

5 次年度に向けた課題　ACTION

包括連携協定を結ぶ板橋区あるいは八潮市との新しいプログラム開発の可能性をさぐる。地方自治体と連携しての社会貢献活動を発展継続するために、東京キャンパスでサービスラーニングセンターといった専門部署を立ち上げることも検討したい。

地方自治体と連携しての社会貢献活動を発展継続するために、東京キャンパスでサービスラーニングセンターの機能を担う専門部署あるいは人員を置くことも検討したい。

以上

人文学部

7　図 書 館〔東京〕

関連委員会	東京図書館運営委員会
関 連 部 署	図書館事務室
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

図書館の入館者数は短期大学部も含め20,613人であったが、29年度は少なくとも20％増の24,000人を目標とする。

人文学部学生による館外貸し出し数は1,535冊であった。29年度はこれを20％以上、上回ることを目標とする。

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（1）活動方針

学生及び教職員による図書館の利用頻度を上げ、もって学生の学力向上及び教員の教育・研究活動の促進に資すること。

（2）目標

① 図書館の入館者24,000人を目標とする。

② 人文学部学生の一人当たりの館外貸し出し冊数を昨年度比20％以上、上回る実績をあげる。

2　具体的計画　*PLAN*

（ア）新入生を対象とした図書館ガイダンスの実施

（イ）2年生以上を対象としたデータベースガイダンスの実施

（ウ）読書感想文発表会の淑徳祭での実施

（エ）シラバス記載の参考図書コーナーの設置

（オ）学生の図書選書委員に対し活動を活性化させるための指導

（カ）教員に対し視聴覚教材を用いる場合の図書館での授業の実施の要請

（キ）図書の館外貸し出しを実施した学生について、その点数に応じて表彰する制度を新たに設ける。

（ク）図書館4階の壁スペースに人文学部関連書架の増設し、みずほ台図書館から、歴史学科関連資料の図書約700冊を収容し、学生の利用に供する。

（ケ）東京図書館規程各種の見直し

3　取組状況　*DO*

（ア）新入生図書館ガイダンスをクラス別に実施し、目的とする図書の探し方、図書館が実施する種々のサービスの理解などを指導した。

（イ）表現学科、歴史学科関連のデータベースの説明及び利用に関するガイダンスをゼミ単位で実施した。

（ウ）学生に対する読書の習慣化による図書館利用の促進を目的とし、淑徳祭では、これまでの「読書感想文発表会」に加え、新たに「朗読コンテスト」を実施した。

（エ）シラバス記載の参考図書コーナーを設置し、授業内容と図書館蔵書のリンクで図書館利用の促進を行った。

（オ）学生目線での図書館の魅力の発見及び企画さらには学生選書コーナーの設置により学生の関心及び注目を呼び起こすように努めた。

（カ）学生に図書館に足を向けさせることで、図書館を身近な存在とすることを期待して教員に対し図書館で視聴覚教材を使う授業の実施を依頼した。

（キ）館外貸し出し冊数の多い学生に対して、貸し出し点数に応じて表彰する制度を検討したが、具体案までには至らなかった。
（ク）書架を増設し、歴史学科関連資料を学生の利用に供することができた。
（ケ）東京図書館規程改定案が教授会で承認された。

4 点検・評価 CHECK

取り組み状況は概ね、計画通り実施できた。（ウ）の「朗読コンテスト」新規開催により表現学科の学生の参加も促すことができた。

３月末までの入館者数は23,201人で、昨年度を上回ったが、目標の24,000人には至らなかった。

館外貸し出し冊数に関しても、目標とした昨年度比20％増は至らず、1,385冊にとどまった。在籍者数が増加したにもかかわらず、入館者数と貸し出し冊数が共に目標の数値を達成できなかった。

5 次年度に向けた課題 ACTION

図書館の入館者数は短期大学部も含め23,201人であったが、30年度は少なくてもこれ以上の入館者数を目標とする。

人文学部学生による館外貸し出し数は1,385冊であった。30年度はこれを超えることを目標とする。

また、入館者数、貸し出し冊数増加のために、図書館内にラーニング・コモンズ等の設備を拡充することも検討する。

以上

人文学部

8　自己点検・評価

関連委員会	自己点検評価委員会
関 連 部 署	総務部、教育研究支援センター
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

引き続き、科学研究費はじめ外部の研究資金の導入を積極的に行う。各教員が教育と研究を両立させること、学部としてその環境づくりを進めることが引き続きの課題である。

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（1）専任教員は全員、科研費を申請する。
（2）専任教員は、年一本以上の学術論文を執筆し、研究実績を積み重ねる。単著のない教員は、早い時期に単著を公刊する。
（3）各委員会の活動計画、中間報告、活動報告を年3回にわたり確認する。
（4）認証評価に向けた取り組みを行う。

2　具体的計画　*PLAN*

（1）学部長、学科長が年度はじめに論文の執筆等の研究計画を確認する。
（2）教育支援センターなど関係機関と連携し、科学研究費申請に向けての準備の支援を行う。学科会等で申請の準備としての研究の進捗状況などを適宜報告させる。
（3）学科長が、科学研究費申請時期に申請を促す。

3　取組状況　*DO*

科学研究費については3件申請し、1件が採択された。継続中は3件である。外部研究資金に関する説明会の参加率は100％であった。

4　点検・評価　*CHECK*

科学研究費の申請ならびに単著の公刊計画は、目標に年々近づいている。

5　次年度に向けた課題　*ACTION*

引き続き、科学研究費はじめ外部の研究資金の導入を積極的に行う。各教員は、学術論文等を年2本以上執筆する。学部としては、教育と研究を両立させることができる環境づくりを進める。

人文学部

9　その他①〔免許資格取得支援〕

関連委員会	教学委員会・教職課程運営委員会
関 連 部 署	学生支援部
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

教員免許取得を願う学生の希望を実現するために、教職員が総力を挙げて学生の資質能力の飛躍的な向上に努める必要がある。

1　平成29年度 活動方針・目標　*ACTION PLAN*

（1）活動方針

① 教職サークルを組織し、教育実習が成功するように万全の体制で取り組む。

② 板橋区教育委員会と連携した「学習支援ボランティア」に教職志望の学生を積極的に参加させる。

（2）目標

① 教員採用候補者選考試験の模擬試験成績の目標値について、１年生10％、２年生30％、３年生60％、４年生80％以上を目指す。

② 板橋区の「学習支援ボランティア」に20名以上の学生を参加させる。

2　具体的計画　*PLAN*

① 以下の時間帯において教職サークルを開講する。

ａ．毎週火曜日　8：00～ 8：50

ｂ．毎週火曜日　14：30～18：00

ｃ．毎週木曜日　8：00～ 8：50

② 学習支援ボランティア募集を周知する場を、１回以上設定する。

3　取組状況　*DO*

① 計画に従って教職サークルを開講し、模擬授業の練習、学習指導要領の勉強、教員採用候補者選考試験のための教職教養、専門教養受験のための学習指導を行った。

② 新２・３年生のオリエンテーションの場において、板橋区の「学習支援ボランティア」についての周知を行った。

4　点検・評価　*CHECK*

① ４年生で自信を喪失し、教育実習を途中で取りやめた学生が１名出た。また、教育実習を終えたものの実習日誌を提出せず、教職課程を辞退した学生が１名出た。

② 特別支援学校における介護等体験実習に参加した３年生のうちで１名の実習態度が悪く、実習そのものを打ち切らざるを得ない状況に陥った。

③ ４年生の学力は65％まで向上したが、80％に到達できず、公立学校の教員採用候補者選考試験は４人受験したものの、４人とも一次試験を突破することはできなかった。（なお、この４名のうち、３名は私立高校の非常勤講師に、１名は小山市の職員に採用された。）

④ 板橋区「学習支援ボランティア」の参加者は20名で目標数値を達成することができた。

5　次年度に向けた課題　*ACTION*

教育実習において辞退者が出てしまった原因として、教職課程担当教員が１年次前期に教職概論を担当した後、３年次後期の教育実習事前指導を担当するまで、教職課程履修学生を直接

指導する場が制度として設けられていなかった点が大きな問題であると考えられる。今後は、教職課程担当教員が教職課程履修学生を４年間にわたり一貫して担当できるような指導体制を構築する必要がある。

9　その他②〔ハラスメント防止〕

関連委員会	ハラスメント防止委員会
関 連 部 署	総務部
関連データ	

平成28年度大学年報　　**【次年度に向けた課題】**

28年度に達成できなかった部分について、次年度では完全に達成させる。そのための具体策としては、教職員研修会を年２回以上実施し、教職員参加率も100％を目指す。

また学生への啓発活動を年１回以上実施する。

以上の２点を実施・達成させるためには、ハラスメント防止委員会の委員とハラスメント相談員が綿密に連絡・相談・会議などを行なって、その実現を目指さなくてはならない。

1　平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）活動方針

淑徳大学ハラスメント防止規程に基づいて、東京キャンパスでのハラスメントを防止し、ハラスメントのない・起きない快適な教育・職場環境を保証するための適切な活動を行う。

（2）目標

① キャンパス内外を問わず、大学構成員の学生・教職員等におけるハラスメントを防止するため、教職員に対してはハラスメント研修会を人文学部と短期大学部で２回以上実施し、意識向上を図る。なお、研修会への教職員出席率を100％とする。

② 学生に対するハラスメント防止の啓蒙活動を行うために全学年を一堂に会して研修会を実施することは難しいので、ゼミやクラスアワーを通じて指導教員よりハラスメント防止の指導を行う。

2　具体的計画　PLAN

① 教職員を対象としたハラスメント研修会の実施

ハラスメントの発生を事前に防止するために、ハラスメント防止研修会を実施する。研修会は複数の事例を基に模擬デモンストレーションやグループワーク形式を中心に全員参加で実施する。

② 学生全員に対するハラスメント防止の啓蒙活動を行うためハラスメントに関するリーフレットを作成する。

3　取組状況　DO

① ハラスメントを防止するために、教職員に対する研修会を人文学部で２回、短期大学部で１回、合計３回実施した。研修内容は、パワーハラスメントを題材としたDVDの視聴と、課題を提供してのグループ討議、発表を行った。人文学部教職員の参加率は100％を達成した。

② ハラスメント防止リーフレットの作成は未完に終わった。

4　点検・評価　CHECK

① ハラスメント防止研修会が予定通り実施できたこと、参加率が100％を達成したことは評価できる。研修会の内容も参加者アンケートの結果から概ね好評であった。

② ハラスメント防止を啓蒙するために学生用リーフレットは重要であるため、来年度作成、配布する。

5 次年度に向けた課題 ACTION

ハラスメント防止を啓蒙するリーフレットの作成が未完に終わり、ハラスメント防止の広報活動・啓蒙活動が遅れた。短期大学部と共同で東京キャンパスにおけるハラスメント防止のための諸活動を充実させる必要がある。

以上

9　その他③〔保健衛生〕

関連委員会	教学委員会
関 連 部 署	学生支援部
関連データ	

平成28年度大学年報	【次年度に向けた課題】
学生が健全で有意義な学生生活をおくることができるように支援を行う。	

1 平成29年度 活動方針・目標　ACTION PLAN

（1）活動方針
学生の生活に関して、必要に応じて適切な支援を実施する。
（2）目標
学生支援に関する大学としての方針にもとづき、保健衛生に関わる学生支援の体制を整備する。

2 具体的計画　PLAN

① 年度内に学生の相談に応ずる体制の整備をととのえる。
② 年度内にアカデミックハラスメント、セクシャルハラスメント、モラルハラスメント等を防止するための体制の整備を行う。
③ 年度内に学生の心身の健康を良好に保つための相談体制等を整備する。

3 取組状況　DO

① 東京キャンパス１号館に学生相談室を設置し、専門職員を常駐させている。
② 人文学部にハラスメント防止委員会を設置し、ハラスメントに関わる相談窓口を整備した。
また、年度内に教職員対象のハラスメント研修を実施した。
③ 東京キャンパス１号館に保健室を設置し、専門職員を常駐させている。また年度初めに健康診断を実施し、学生の健康管理に関わる指導を行った。

4 点検・評価　CHECK

学生の心身の悩みに関わる相談に応ずる体制はできている。ただし、心身の悩みから不登校や休学に踏み切る学生の多くは、必ずしも学生相談室を利用しているとは限らず、利用しやすい環境や配慮が万全とは言いがたい面もある。

5 次年度に向けた課題　ACTION

今後は、学生が相談室を気軽に利用できるような環境作りに努める必要がある。また、アドバイザー教員と学生支援部職員、学生相談室の専門職員間において、可能な限り情報の共有化を図り、連携して学生の生活支援に努める必要がある。